

蚊に刺されて起こる 感染症に注意しましょう!

対策してる?



蚊が媒介する病気を予防するには、
蚊に刺されないようにすることが大切です。



対策1 蚊に刺されない

日中はヒトスジシマカが活発に活動するので、屋外で活動する場合には、できるだけ次のような対策をしましょう。

- ☑ 肌の露出の少ない長袖、長ズボンを着用する
- ☑ 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ
(蚊は色の濃いものに近づく傾向がある)
- ☑ 露出する部分には虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする
- ☑ 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない etc



対策2 蚊の発生を抑える

デング熱等の蚊が媒介する感染症の発生を防ぐためには、ヒトスジシマカの発生を抑えることが大切です。

- ☑ 家の周囲の不要な水たまりをチェックし、除去しましょう。

植木鉢の水受け
バケツ
屋外に放置されたペットボトルや空き缶など
雨ざらしのじょうろ etc





海外旅行 をされる方へ



渡航先での注意

可能な限り、しっかりと網戸がとりつけられているか、エアコンが備わっている、または、蚊をしっかりと駆除しているホテルやリゾートにご滞在ください。蚊取り線香も有効です。



海外で蚊に刺されたら?

海外で蚊に刺されて、熱が出た場合はできるだけ早く医療機関を受診してください。帰国時に心配なことがあれば、検疫所の担当者にご相談下さい。帰国後に医療機関を受診する時には、医師に、渡航先や渡航期間、渡航先での活動などについて、詳しくお伝えください。



蚊が媒介する主な感染症

あなたの渡航先、症状は大丈夫?

感染症	症状	発生地域	ワクチン・予防薬
ジカウイルス感染症	発熱（多くは 38.5 度以下）、関節痛、発疹。感染しても症状がないか、症状が軽いため気づきにくいこともあり	中南米・カリブ海地域、オセアニア太平洋諸島、アフリカ、アジア	なし
デング熱	急激な発熱、発疹、頭痛、骨関節痛、筋肉痛、嘔気・嘔吐	東南アジア、中南米、アフリカ、オセアニア等	
チクングニア熱	突然の発熱、関節痛、発疹、関節腫脹を伴う場合あり。急性症状が治まった後も、関節炎が再燃することがある	アフリカ、東南アジアや南アジア、カリブ海地域、米国、中米、太平洋諸島	
日本脳炎	発熱、頭痛、吐き気、嘔吐、めまい、意識障害	日本、中国、東南アジア、南アジア	日本脳炎ワクチンがあり
マラリア	発熱、悪寒、倦怠感、頭痛、筋肉痛、関節痛	アジア、アフリカ、中南米	予防薬はいくつかあり。流行地へ旅行前に専門医に要相談

※ 妊婦のジカウイルス感染と胎児に「小頭症」などの症状が表れることとの関連性が疑われており、世界保健機構 (WHO) は、妊婦は流行地域への渡航を控えるように勧告しています。